

(2012年度)

## 5 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は19ページ，4問である。)

### 受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し，氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき，枠からはみ出したり，枠のなかに白い部分を残したり，文字や番号，枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

**1** 天平文化と弘仁貞観文化を中心とした古代に制作された文化財(1)～(20)について後の問いに答えなさい。

- (1) 観心寺如意輪観音像
- (2) 興福寺阿修羅像
- (3) 青蓮院不動明王像
- (4) 唐招提寺金堂盧舎那仏像
- (5) 東大寺法華堂執金剛神像
- (6) 園城寺不動明王像
- (7) 唐招提寺鑑真像
- (8) 室生寺弥勒堂釈迦如来像
- (9) 西大寺十二天像
- (10) 聖林寺十一面観音像
- (11) 教王護国寺講堂不動明王像
- (12) 新薬師寺十二神将像
- (13) 東大寺戒壇院四天王像
- (14) 元興寺薬師如来像
- (15) 薬師寺吉祥天像
- (16) 新薬師寺薬師如来像
- (17) 神護寺薬師如来像
- (18) 薬師寺東院堂聖観音像
- (19) 法華寺十一面観音像
- (20) 薬師寺僧形八幡神像

**問 1** 前掲の文化財(1)～(20)のそれぞれについて、その種類と所属する文化名を答えなさい。ただし、種類は彫刻または絵画(図像)とし、彫刻の場合は、①木像、②塑像、③乾漆像、④金属(金銅像など)のいずれかを選び、絵画の場合には⑤を選びなさい。あわせて各文化財の所属する文化も、A「天平文化」、B「弘仁貞観文化」、C「A・B以外の文化」、で答えなさい。

解答例：(1)－④－B(彫刻の場合)、(2)－⑤－C(絵画の場合)など。

問2 前掲した文化財(1)~(20)のあるものについて関連する下記の問いに答えなさい。

A) 文化財(1)と同じ文化に属するものを2つ選びなさい。

- ① 法隆寺夢殿      ② 高松塚古墳壁画      ③ 興福寺仏頭
- ④ 類聚国史      ⑤ 白氏詩巻      ⑥ 東大寺大仏殿八角灯籠
- ⑦ 日本靈異記      ⑧ 醍醐寺五重塔

B) 文化財(4)と同じ文化に属するものを2つ選びなさい。

- ① 経国集      ② 東大寺法華堂日光・月光像
- ③ 法隆寺夢違観音像      ④ 平等院鳳凰堂
- ⑤ 離洛帖      ⑥ 法隆寺金堂壁画
- ⑦ 性霊集      ⑧ 過去現在絵因果経

C) 文化財(9)と同じ文化に属するものを2つ選びなさい。

- ① 白杵磨崖仏      ② 東大寺転害門      ③ 懐風藻
- ④ 菅家文章      ⑤ 中尊寺金色堂      ⑥ 風信帖
- ⑦ 屏風土代      ⑧ 枕草子

D) 文化財(10)と同じ文化に属するものを2つ選びなさい。

- ① 法隆寺伝法堂      ② 竹取物語      ③ 顕戒論
- ④ 往生要集      ⑤ 風土記      ⑥ 三教指帰
- ⑦ 源氏物語絵巻      ⑧ 大鏡

E) 文化財(18)と同じ文化に属するものを2つ選びなさい。

- ① 室生寺金堂釈迦如来像      ② 法隆寺阿弥陀三尊像
- ③ 薬師寺東塔      ④ 正倉院宝庫
- ⑤ 唐招提寺金堂      ⑥ 法隆寺玉虫厨子
- ⑦ 法隆寺百済観音像      ⑧ 文鏡秘府論

2

次にあげる事件(A)~(F)について、下記の各問に答えなさい。

- (A) 鎌倉公方( 1 )は、対立していた関東管領上杉憲忠を謀殺したため、幕府の追討をうけ、上杉氏を支援する幕府と公方方との対立に拡大した。やがて( 1 )は下総国古河を拠点として、関東を二分する戦乱状態が長期にわたって展開した。
- (B) 九州探題今川了俊の下で九州鎮定に力を尽くし、朝鮮との交易も積極的にすすめ、西国の有力守護となったが、強大化する外様有力守護の統制をすすめる将軍( 2 )と対立を深め、反幕行動をとったが、結局は幕府軍によって討伐された。
- (C) 将軍( 3 )は将軍専制体制を確立するため、管領をはじめとする有力守護の勢力を抑制する政策を強行し、守護家内部の家督相続問題などに介入したため、逆に有力守護( 4 )に殺害されて、将軍権威の失墜をまねいた。
- (D) 本願寺の( 5 )の布教によって近畿・東海・北陸に広まった浄土真宗本願寺派の勢力を背景とし、加賀の門徒が国人と手を結び、守護( 6 )を滅ぼして、「百姓の持ちたる国」という門徒領国を以後一世紀にわたって形成した。
- (E) 鎌倉幕府以来の法秩序を重んじる有力御家人を基盤とする( 7 )と、武力による所領の拡大をめざす畿内近国の新興勢力に支持される執事( 8 )との間に激烈な権力闘争が繰り広げられた結果、両勢力は遂に武力による対決へと突入した。
- (F) 幕府に対して反抗的な態度をとりつづける鎌倉公方( 9 )と、それを諫め幕府との融和をすすめようとする関東管領( 10 )との対立を契機に、将軍( 3 )は( 9 )追討軍を派遣し、遂に鎌倉公方4代にわたる東国支配は幕を閉じた。

問1 上記の事件(A)～(F)に関係の深い事件名を下から選びなさい。

- ① 応永の乱            ② 中先代の乱            ③ 山城の国一揆  
④ 享徳の乱            ⑤ 観応の擾乱            ⑥ 明徳の乱  
⑦ 天文法華一揆      ⑧ 土岐氏の乱            ⑨ 永享の乱  
⑩ 応永の外寇        ⑪ 加賀の一向一揆      ⑫ 嘉吉の乱

問2 上記の事件(A)～(F)の空欄( 1 )～( 10 )に相当する適切な人物を下から選びなさい。

- ① 足利直義    ② 足利義政    ③ 富樫政親    ④ 赤松満祐  
⑤ 足利成氏    ⑥ 足利尊氏    ⑦ 足利義満    ⑧ 上杉憲実  
⑨ 高師直      ⑩ 足利持氏    ⑪ 蓮如        ⑫ 足利義教

問3 下にあげる史料ともっとも関係の深い事件を問1の事件名の中から選びなさい。

(a) 近日四辺の土民蜂起す。土一揆と号し、御徳政と称して、借物を破り、少分を以て押して質物を請く。絳江州より起る。…今日、法性寺の辺に此事有りて火災に及ぶ。侍所多勢を以て防戦するも猶承引せず。土民数万の間、防ぎ得ずと云々。…今土民等、代始に此の沙汰は先例と称すと云々。言語同断の事なり。

(b) (前略)土民、侍分と確執す。侍分悉く以て土民方より国中を払はる。守護代侍方に合力するの間、守護代こすき打たれ了んぬ。…二千人計打たれ了んぬ。国中焼け失せ了んぬ。東方の鶴童ハ国中へ打ち入ると雖も、持ち得ずと云々。

(c) 当代ニハ山名氏清謀反、暫時ニ之ヲ退治ス。今ノ義弘モサコソ有ンズレトテ、驍テ細川右京大夫頼元、京極治部少輔入道、赤松上総入道、都合其勢六千余騎、淀、山崎ヨリ和泉国ニ発向ス。…相公モ東寺ニ御陣召サレケリ。馬廻二千余騎、御伴ノ人々ニハ管領子息尾張守(中略)等ヲ始トシ、已

上其勢三万余騎，…八幡に御陣ヲ召サレケル。其日躰テ八幡ヨリ…和泉国ニ発向ス。

問4 上にあげた事件(A)～(F)を勃発した年代の古い順に配列した場合，配列順が正しいものはどれか。下から選びなさい。

- ① EBCFAD      ② BEFCDA      ③ BFCEDA  
④ ECBAFD      ⑤ BECFAD      ⑥ EBFCAD  
⑦ ECBADF      ⑧ BCEFDA      ⑨ BEFCAD  
⑩ EFBCDA      ⑪ BFCEAD      ⑫ EFBCAD

3 図は江戸時代の米価(米1石あたりの銀匁で表示)の変遷を示している(ただし金額の目盛りは対数表示になっている)。この図と図に関する下の文を読んで、以下の設問に答えなさい。ただし図中の①～⑦は主要な貨幣改鑄が行われた大体の時期を示している。



江戸時代に、米は商品としてもっとも重要な位置を占めていた。米は民衆にとってはなくてはならない主食であったし、領主財政にとってはもっとも重要な年貢物であった。江戸時代の米価は、現代と同様に需要と供給のバランスで上下した。それだけでなく貨幣改鑄によって変化する貨幣の品位や貨幣の流通量によって変動する側面もあった。

米の生産力が高まれば米の供給が増えて価格は低下した。凶作は米の供給を減らしたから、短期的に米価を大きく引き上げた。長期的には人口の増減による需要の変化も米価を変動させる要因であった。



貨幣改鑄も米価に影響を与えた。江戸時代には、慶長年間に基本となる金銀貨が鑄造された。これに( A )が加わって、三種の貨幣が幕府貨幣として通用する三貨制度が成立した。<sup>(エ)</sup>幕府が発行する貨幣量が多すぎると米価は上昇し、少なすぎると低下する傾向があった。このほか、地域通貨として諸藩や旗本が発行する( B )があった。( C )が発行する手形も、貨幣に代わる金融手段として重要な役割を果たした。

幕府は財政難に陥ると、それまで流通していた貨幣よりも金、銀の含有率が低いか、あるいは重量が軽い貨幣を発行して、鑄造差益(出目)を手に入れようとした。図の①の時期に実施された貨幣改鑄を皮切りに、それに続く②の改鑄によって、質の悪い貨幣が大量に発行され、米価は1石あたり100匁を超えるまでになった。

貨幣の質の悪化を憂えた( 1 )が行った図中③の改鑄は、元禄小判よりも高品質の貨幣を発行した例外的な改鑄である。しかし貨幣発行量が収縮したため、米価は大幅に低下してしまった。①～③の通貨要因による米価の乱高下を抑えたのは、図の④の改鑄であり、それは将軍( 2 )が断行したものであった。

18世紀に人口増加が停滞的になったことは、米価の趨勢に影響を与えている。また、図中④から⑤までの間に金貨の改鑄は行われなかった。その結果、<sup>(オ)</sup>長期的には米価は安定していた。しかしこの期間にはたびたび大きな凶作が発生したので、米価は短期的に上昇と下落を繰り返した。またこの期間中に、( 3 )によって画期的な貨幣政策が実施された。

19世紀になると、幕府は財源を確保するために⑥期以後、繰り返し貨幣改鑄を行った。開港にともない、⑦期には度重なる改鑄が行われた結果、米価は一挙に<sup>(カ)</sup>10倍以上に跳ね上がってしまった。経済が混乱したなか、明治維新を迎えることになる。



問1 以下のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 下線部(ア)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。
- a. 江戸時代前期の耕地面積の増加は人口増加よりも小さかったので、土地生産性の高い労働集約的な発展が必要とされた。
  - b. 備中鍬は、田の荒起こしや深耕用に適しており、土地生産性を高める道具であったから、江戸時代中期には全国に普及した。
  - c. 千歯扱、穀竿、千石どおしは作業効率を高めたので、稲の単位面積あたり収量の大幅な増収を導いた。
  - d. 刈敷や厩肥は金肥と呼ばれ、作物の収量を上げるために、江戸時代になって盛んに用いられるようになった。
  - e. 日本では、農業に牛馬や大型農具を大規模に利用する技術は発達しなかった。
- (2) 下線部(イ)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。
- a. 図中、②の時期には、浅間山の大噴火があり、降砂によって駿河・相模などの国におおきな被害をもたらした。
  - b. 図中、④の直前には天候不順のなか、西日本一帯で稲の害虫が大量に発生したため、大凶作となった。
  - c. 図中、④と⑤の中間の時期に起きた凶作は、冷害によって始まり、東北地方を中心に多数の餓死者を出した。
  - d. 図中、④と⑤の中間の時期に起きた凶作のあと、各地に社倉・義倉をつくって、飢饉に備える上げ米の制がつくられた。
  - e. 図中、⑥の直前には50年ぶりの大凶作となり、米価の高騰による民衆の困窮をみかねた大坂町奉行所の元与力であった陽明学者の指導の下で、武装蜂起が起きた。

(3) 下線部(ウ)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. 分地制限令が出された背景には、17世紀を通じて総人口が大きく増加したため、田畑の細分化するのを防止する必要があるとみられる。
- b. 一戸を構成する者の名前、続柄、年齢などを記す宗門改帳は、人口史料として重視されるが、本来、キリスト教をきびしく監視する目的で作成されたものである。
- c. 江戸時代中・後期(1721～1846年)の人口変化は、地域によって差が大きく、東北地方と北関東では人口増加が大きかったのに対して、西南日本では大きく減少した。
- d. 幕末になると人口が回復しはじめたので、米価上昇は貨幣的要因だけではなく、人口の回復もその原因になったと考えられる。
- e. 明治初期の史料によると、旧武士人口(士族・卒)は総人口の1割を超えていた。

(4) 下線部(エ)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. 金貨ははじめから重量と品位(金の含有率)が一定の計数貨幣として铸造された。
- b. 慶長期に铸造された銀貨は、重量と品位(銀の含有率)が一定ではない秤量貨幣であった。
- c. 東日本ではおもに金貨が、西日本ではおもに銀貨が取引の中心とされた。
- d. 長崎貿易によって大量の金銀貨が流出したため、これを防ぐ目的で③の時期に、貿易額が制限された。
- e. 18世紀には金1両＝銀50匁が公定相場とされたが、三貨の交換率はつねに変動した。

(5) 下線部(オ)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. 初めての計数銀貨として明和五匁銀が鑄造された。
- b. 南鐐二朱銀も定量の計数銀貨として鑄造された。
- c. 南鐐二朱銀1枚は、金1両の4分の1の価値をもつ。
- d. 南鐐二朱銀が画期的であったのは、金貨同様の貨幣として通用した点である。
- e. 幕末期には南鐐二朱銀のようなタイプの銀貨が主流となり、事実上、銀を中心とする貨幣制度への一本化が進んだ。

(6) 下線部(カ)に関する記述として、明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. 開港にともない、外貨と日本の貨幣との交換は「同種同量」が原則とされた。
- b. 居留地における外国商人と日本商人との間の取引は、銀貨を用いて行われた。
- c. 日本と外国の金銀比価が大きく違っていたため、大量の銀貨が流出した。
- d. 金銀比価の不均衡を正すために、万延改鑄を行って金貨の重量を大幅に引き上げた。
- e. 物価上昇は民衆の生活を圧迫したため、貿易に対する反感が高まった。

問2 以下のそれぞれの問いに答えなさい。

- (1) 空欄( A )に入れるべき事項に関する説明として明らかに間違っているものを a～e より1つ選びなさい。
- a. この主原料である銅は日本では不足していたので、勘合貿易以来、日本の主要な輸入品だった。
  - b. 江戸時代初期には中国から輸入された永楽通宝が流通していた。
  - c. 慶長期には金銀貨とともに、慶長通宝が铸造されたとされるが、本格的に流通することはなかった。
  - d. 寛永通宝が铸造されてからは、これが銭貨の代表として取って代わった。
  - e. のちに鉄や真鍮から铸造されたものも発行された。
- (2) 空欄( B )に入れるべき事項に関する説明として明らかに間違っているものを a～e より1つ選びなさい。
- a. この最初のもは17世紀後半に発行された。
  - b. これは幕府の保証によって大坂・江戸など領外でも通用した。
  - c. これは幕府の発行する三貨の不足を補い、流通を円滑にする役割を果たした。
  - d. これは藩財政の窮乏をおぎなう役割を果たした。
  - e. これを利用することによって、藩営専売制を行い、経済活動を発展させることに役立った。
- (3) 空欄( C )に入れるべき事項に関する説明として明らかに間違っているものを a～e より1つ選びなさい。
- a. この主な役割は異なる貨幣間の両替と秤量である。
  - b. このうち有力なものは、公金の出納を業務として行った。
  - c. このうち有力なものは、幕府・藩に対する貸付を行い、その財政を支えた。
  - d. これは為替手形を発行して、遠隔地間の決済に重要な役割を果たした。
  - e. この業務を元に財を成した岩崎弥太郎は、のちに三菱会社を設立した。

問3 以下のそれぞれの問いに答えなさい。

(1) 空欄( 1 )に入れるべき人名に関する説明として正しいものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. この人物は将軍家宣に儒者としてつかえ、側用人の柳沢吉保を信任して改革を推進した。
- b. この人物は朝鮮国王よりも将軍の方が上位にあることを示すために、日本宛国書にしるされる将軍の称号を「日本国王」から「日本国大君殿下」へ改めさせた。
- c. この人物は家宣の将軍就任の慶賀のために派遣された朝鮮通信使の待遇を簡素にした。
- d. この人物が鑄造させた正徳小判の金含有率は慶長小判と同率であった。
- e. この人物は徳川家の土台を堅固にするため、清水家に加えて、田安家・一橋家を興させた。

(2) 空欄( 2 )に入れるべき人名に関する説明として明らかに間違っているものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. この人物は金公事を当事者同士で解決させるために相対済し令を出した。
- b. 年貢増収をめざして、印旛沼・手賀沼の干拓工事に着手した。
- c. 幕領でははじめ定免法が一般的であったが、この人物は確実に生産力の上昇を把握することを目的に検見法を採用した。
- d. この人物は商品経済を把握しようとして商人・職人の仲間を広く公認した。
- e. この人物は法に基づく合理的な政治をめざして、幕府の法令や裁判の判例を集大成させた。

(3) 空欄( 3 )に入れるべき人名に関する説明として正しいものはどれか。a～eより2つ選びなさい。

- a. この人物は幕府財政の再建のために、民間の活動を活発化し、営業税

- として運上や冥加を徴収した。
- b. この人物は飢饉によって農村を離れた百姓の他国への出稼ぎを制限しようとした。
  - c. この人物は両替商を中心とする豪商を勘定所御用達に登用して、改革を推進した。
  - d. この人物は蝦夷地開発を目指して、間宮林蔵に調査を命じた。
  - e. この人物は俵物の輸出によって外国貿易を推進しようとした。

**4** 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

戦後の日本が日米関係を基軸に形づくられたことは、疑いえない事実である。ここにいう「戦後」とは、いわゆる太平洋戦争後のことであって、その幕が上がったのは、実質的には、1945(昭和20)年8月14日、日本政府がポツダム宣言<sup>(a)</sup>の受諾を連合国側に通告したことによる。翌15日、天皇のラジオ放送を通じて太平洋戦争の終結が広く国民に伝えられ、9月2日には、降伏文書の調印により、日本の敗戦が正式に確認された。この調印式はアメリカ戦艦ミズーリ号上で行われ、日本政府を代表して(ア)外相、梅津美治郎(イ)らが出席したが、その相手方の中心人物の一人が連合国軍最高司令官マッカーサーであった。

もちろん、日米関係は、敗戦とともに始まったわけではなく、幕末期にまでたどることができる。北太平洋を航海する貿易船や捕鯨船の寄港地として日本の開国を望んでいたアメリカは、1846(弘化3)年に、東インド艦隊司令長官の(ウ)、1853(嘉永6)年には、同じく司令長官の(エ)を送り、日本との通商、開国を求めた。それが、翌1854(安政元)年の(オ)、1858(安政5)年の(カ)の調印に結びつき、日米関係が展開していくことになる。

しかし、戦後の日本にとって、占領政策を担ったアメリカの存在感と影響力は圧倒的であった。もともと、日本の占領は、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)による間接統治の方法がとられたが、その政策決定については、極東委員会<sup>(b)</sup>と対日理事会によるものとされていた。しかし、アメリカは、前者にあって



は、(キ)が認められるなど、特別の地位を保障され、また、後者にあつては議長を務めることとされていたのである。

こうしてGHQは、アメリカの(ク)を踏まえ、日本の非軍事化、民主化をはかるため、憲法の自由主義化のほか、人権指令、五大改革指令、神道指令など、さまざまな指令を矢継ぎ早に発した<sup>(c)</sup>。これを受けて、日本政府は、日本国憲法公布の前後に、重要な意味をもつ法の整備を行った<sup>(d)</sup>。また、経済の民主化の側面では、財閥や(ケ)の解体というGHQの指示を受け、前者については、持株会社やカルテルなどを禁止する(コ)などが、後者については、自作農創設特別措置法が制定されることになった。

このような占領政策が大きく転換するのは、中国内戦における共産党の優勢が明らかになってからのことである。アメリカ政府にとっては、日本が西側陣営の東アジアにおける主要な友好国となるよう、政治的に安定した工業国として復興することが必要であった。その意向は、1948(昭和23)年1月、アメリカの陸軍長官(サ)によって表明され、外交官(シ)の提言をもとに、経済復興と再軍備という路線が方向づけられることになる。

1952(昭和27)年4月、サンフランシスコ平和条約が発効し、日本は独立国としての主権を回復した<sup>(e)</sup>。しかし、沖縄・小笠原諸島はアメリカの施政権下に置かれ、平和条約調印の同日に調印された(ス)によってアメリカ軍は日本に駐留するものとされた。また、GHQの指令を受けて朝鮮戦争中に新設されていた(セ)は、この平和条約の発効後、(ソ)に改組されるとともに(タ)が新設され、さらには、1954(昭和29)年の(チ)の締結を受け、(ソ)と(タ)を統合して自衛隊を発足させた。

経済復興という点では、資金を重要産業部門に集中させる(ツ)がインフレを進行させることになったため、GHQは、経済安定九原則の実行を指令した<sup>(f)</sup>。また、アメリカ軍の駐留それ自体は、日本の再軍備の負担を抑えることにつながったが、朝鮮戦争にともなうアメリカ軍の(テ)や輸出増加が日本経済の回復に及ぼす影響は大きかった。これ以降、重点産業への国家資金の積極的な投入、税制上の優遇措置政策などを通じて、日本経済は急速に成長していくことになる。



問1 文章中の空欄(ア)～(テ)に入るべき語句を次の語群から選びなさい。

[語群]

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| ① 海上警備隊      | ② 過度経済力集中排除法     |
| ③ 寄地主制       | ④ 強制命令権          |
| ⑤ 金融緊急措置令    | ⑥ 軍令部総長          |
| ⑦ 経済安定本部     | ⑧ 警察予備隊          |
| ⑨ 傾斜生産方式     | ⑩ ケナン            |
| ⑪ 公安調査庁      | ⑫ 在村地主制          |
| ⑬ 参謀総長       | ⑭ 重光葵            |
| ⑮ 初期対日方針     | ⑯ 神武景気           |
| ⑰ ダレス        | ⑰ 中間指令権          |
| ⑱ 東郷茂徳       | ⑲ 特需             |
| ⑳ 独占禁止法      | ㉑ ドレーパー          |
| ㉒ 日米安全保障条約   | ㉒ 日米行政協定         |
| ㉓ 日米修好通商条約   | ㉓ 日米相互協力及び安全保障条約 |
| ㉔ 日米相互防衛援助協定 | ㉔ 日米和親条約         |
| ㉕ ハリス        | ㉕ ビッドル           |
| ㉖ ペリー        | ㉖ 保安隊            |
| ㉗ マッカーサー・ノート | ㉗ 冷戦体制           |
| ㉘ ロイヤル       |                  |

問2 下線部(a)に関する説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この宣言の契機は、アメリカ、イギリス、ソ連の首脳が、ベルリン郊外のポツダムで、ヨーロッパの戦後処理問題を協議したことにある。
2. この宣言が発せられたときは、日本との交戦国であったことから、アメリカ、イギリス、ソ連に加え、中国も名を連ねていた。
3. この宣言には、アメリカの対日方針を踏まえ、日本軍への無条件降伏勧告と日本の戦後処理方針が盛り込まれていた。
4. この宣言に対して、日本政府は当初無視する態度を示し、陸軍は本土決戦を主張していたが、御前会議で最終的にその受諾が決定された。

問3 下線部(b)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. 極東委員会と対日理事会の設置は、1945(昭和20)年、アメリカ、イギリス、ソ連の外相会議において合意された。
2. 極東委員会は、1946(昭和21)年、連合国軍最高司令官の諮問機関としてワシントンに設置された。
3. 対日理事会は、1946(昭和21)年、対日占領政策の最高決定機関として東京に設置された。
4. 極東委員会と対日理事会の構成国として共通していたのは、アメリカのほか、イギリス、ソ連、中国、フランスである。

問4 下線部(c)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. 人権指令が発せられたときの内閣は東久邇宮稔彦が首相であったが、これを実施したのち、閣内不統一により総辞職した。
2. 人権指令には、治安維持法や宗教団税法の廃止、政治犯・思想犯の釈放、内務大臣らの罷免が盛り込まれていた。
3. 五大改革とは、婦人参政権の付与、労働組合の結成奨励、教育制度の自由主義的改革、特別高等警察の解体、経済機構の民主化をいう。
4. 神道指令により、神社・神道に対する政府の監督権が強化され、戦時期の軍国主義や天皇崇拜の思想的基盤となった国家神道の解体がはかられた。

問5 下線部(d)に関して、日本国憲法の公布前に制定または改正された法律はどれか。次のうちから2つ選びなさい。

1. 女性参政権を認める衆議院議員選挙法の改正
2. 労働者の団結権、団体交渉権などを保障する労働組合法の制定
3. 教育の自由主義的改革に向けた教育基本法の制定
4. 地方行政の民主化や自治権の拡充をはかる地方自治法の制定
5. 戸主制度の廃止や男女同権を内容とする民法の改正

問6 下線部(e)に関する説明として正しいものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この条約案への不満を隠さないソ連、中国、インド、ビルマ(現ミャンマー)などは、条約調印のための講和会議を欠席した。
2. この条約の調印をめぐる、日本国内には、知識人層や野党を中心に、すべての交戦国と講和すべきであるとの主張がみられた。
3. この条約では、交戦国に対する日本の賠償義務が定められていたが、各国の賠償請求権は、最終的にすべて放棄されることになった。
4. この条約では、日本の領土を確定するため、朝鮮、台湾の独立とともに、南樺太、千島列島などの放棄が定められていた。

問7 下線部(f)に関する説明として誤っているものはどれか。次のうちから1つ選びなさい。

1. この原則は、日本経済の自立を促すため、総予算の均衡、徴税の強化、賃金の安定、物価の統制などを内容とするものであった。
2. この原則の実施に着手したのは、民主自由党の第2次吉田茂内閣であったが、その任期中の総選挙に大勝し、政権の安定に成功した。
3. この原則の実施にあたって、銀行家のドッジが来日し、超均衡予算や単一為替レートの設定、税制の大幅改革などの施策を立案した。
4. この原則の実施にともない、インフレを収束させることはできたが、不況が深刻化し、失業者があふれるようになった。

